



新入生代表として抱負を述べる坂池良夫さん

心豊かに生きがいのある暮らしを

平成 29 年度 寿大学校・大学院開校式

4月25日(火)、60歳以上の市民を対象に、生涯学習活動の推進と仲間とのふれあいの場づくりを目的にした寿大学校・大学院の開校式が行われました。今年の受講者はあわせて249人。田多野校長は「一人一人が顔ぶれの違う3つの仲間を持つことが健康寿命を延ばす秘訣。今日ここで1つの仲間ができたので、あと2つで皆さんも健康に生きられます」と話し会場を和ませました。市長は「好奇心を持ち続け、学ぶことを楽しみと捉えて頑張ってください」と入校を祝いました。

まちの模範になるような正しい運転を 小中学校自転車教室

5月11日(木)から、市内の小中学校にて自転車教室を順次開催しています。事故防止のため、自転車の正しい乗り方について白山警察署員、市交通安全協会会員などが指導。布水中学校では1年生227人が参加し、自転車ルール・マナー検定や、ダミー人形と自動車との衝突実験などが行われました。

今年は初の試みとして、ドライブレコーダーで撮影した自転車運転時の様子を上映。生徒たちは見慣れた通学路にも、危険な場所が多いことを再確認しました。



事故は油断から。安全確認を頭において走行しましょう。



最後はみんなでのティティ体操をして体を動かしました。

親子で楽しむ吹奏楽ミニコンサート

0歳からの親子音楽会

5月14日(日)、文化会館フォルテで親子音楽会が開かれました。市を拠点に活動する社会人吹奏楽団「石川フィルハーモニックウィンズ」が、アニメや童謡唱歌など子どもたちがよく知る曲を演奏。楽器紹介をはじめ手遊びやリズム遊びを行うコーナーなど、親子と一緒に音楽とふれあえるプログラムが盛りだくさんのステージとなりました。子どもたちにおなじみのエビカニクスなどを踊る場面もあり、会場は笑顔でいっぱいになりました。

まちの話題 FOCUS

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
秘書広報課 (☎ 227-6056)

万が一への備えを

災害時における支援協力に関する協定締結式

5月18日(木)、市は「ホームセントームサシ」を経営するアーカランドサカモト株(会)と災害時における支援協力に関する協定を締結しました。同社は今後大規模災害が発生した、または発生するおそれがある場合に、救援物資や一時的な避難場所の提供などに協力します。坂本雅俊代表取締役社長は「有事の際にはお店を備蓄倉庫ととらえてもらい、行政と連携して必要なものを届けたい。これからも地域の皆さん役に立てるお店づくりに努めていきます」とあいさつ。栗市長は「大変心強い。市民の皆さん安心にもつながり、うれしく思います」と話しました。



アーカランドサカモト株(会)と自治体との災害協定締結は県内初。
行政機関や民間と市との災害協定締結数は、合計43協定になりました。

安心して暮らせるまちづくりのために 平成 29 年度 協働プロジェクト全体会

市地域福祉計画・地域福祉活動計画の協働プロジェクト全体会が5月14日(日)、情報交流館カメリアにて開催されました。市と市社会福祉協議会、市民が連携して取り組む5つの事業について、各プロジェクトのリーダーが活動の成果や今後の予定を報告しました。

回覧板を利用した声かけ運動では、「ひと声かけておとなりへ」などと書かれた回覧板やステッカーの製作について発表。今後もつながりあるまちづくりのため意識の周知に継続していくと話しました。



金城大学社会福祉学部教授の内慶端氏が助言者を務めました。

座りっぱなし生活、やめます！

「STAND UP301 宣言」宣言式

市老人クラブ連合会発案のもと5月15日(月)、30分に1回立ちあがり、健康増進・介護予防を目指す「STAND UP301 宣言」宣言式を開催しました。家庭や職場で座りっぱなしの生活をやめて体を動かすことで、血液の流れがよくなり、脳梗塞などの予防に効果が期待されます。宣言を受けて栗市長は「市民の中から自発的に、誰でも気軽に心がけられるユニークな取り組みが生まれてうれしい。市としてもこれまで以上に連携して活動を広めていきたい」と話しました。



スタンプを活用し、活動の記録を残します。